

高尾山報

令和2年8月号



百合にほふ

大師靈場

高尾山

法の水茎

大正大学講師 高橋秀城

(98)

七月、上旬より日本各地で発生した集中豪雨は、長期間にわたって甚大な被害をもたらしました。まずは被害に遭われました皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

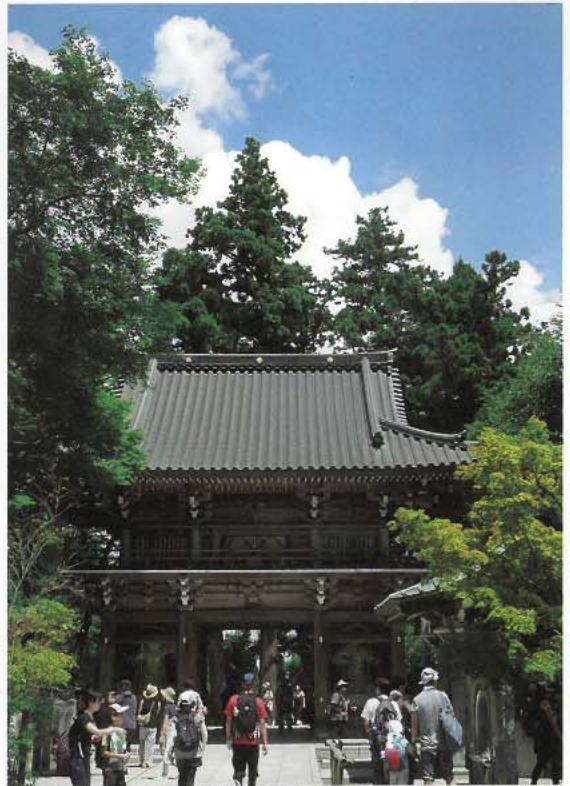
うちつけに
物ぞ悲しき
木の葉散る
秋の始めを
今日ぞ思へば

（『後撰集』読人不知）
（突然に何となく悲しくなってきたよ。木々の葉が散る秋の始まりが今日だと思つと）

長かつた梅雨時期が終わったかと思つと、いつの間にか残暑見舞いを送る季節となりました。今年の上では秋を迎え、今年もすでに半分が過ぎ去つたこととなります。「秋風素莫」という熟

語があるように、秋風が吹く頃になると、次第に自然の衰えが意識されて、何となく物寂しくなってくるものです。これから少しづつ日も短くなつて、朝夕の吹き抜ける風にも涼しさを感じられるようになるでしょう。

この「うちつけに」の歌では、立秋の風が木の葉を散らす姿に切なさを感じています。もしかすると秋風は、心の奥底に仕舞い込んでいた本当の感情をも、そよそよと揺さぶつているのでしようか。八月も中旬になれば、月遅れのお盆が巡つてきます。もともとは旧暦七月十五日を中心とする日に行われていたが、明治五年（一八七二年）十一月九日の「改暦の布告」によって、東京などの大都市では新暦



八月も中旬になると秋の訪れを感じるようになる

七月、その他の多くの地域では季節を合わせて新暦八月に行われるようになりました。また沖縄地方では、今でも日程が毎年変わる旧暦のお盆が続いているそうです。今年には閏月があつたため、旧暦のお盆は九月上旬にずれ込んでいます（八月三十一日から九月三日）。このような違いを見るとややこしくも感じられますが、ご先祖様

をお迎えする時期が増えたと思えば喜ばしいことでしょうか。お盆は、亡き人が「あの世」（彼の世）から「この世」（この世）にお帰りになる期間です。旧暦七月一日は「釜蓋朔日」と呼ばれ、地獄の釜の蓋が開く日でもあり、一般的にはこの日からお盆が始まります。折り返しの七日（七夕）には精霊棚を作つて、十三日にお迎

えし（迎え火）、十六日にお送りします（送り火）。仏教では、あちらの世を「彼岸」、こちらの世を「此岸」と言います。二つの間には「三途の川」と呼ばれる大きな川が流れていて、簡単には向こう岸に渡ることができません。彼岸と此岸には大きな隔りがあるのです。「この世」では、時に自然の猛威によって、予期せぬ災害に見舞われる

ことがあります。身も心も激しい悲しみに襲われることもあるでしょう。また自然災害のみならず、「徒然草」（第一段）に「いや、この世に生れては、願はしかるべき事こそ多かめれ」（さて、この世に生まれてきたからには、誰でも願わしいことが多いようだ）と語られているように、この世には、例えば名聞（名誉欲）や利養（財欲）など、さまざま欲望が渦巻いています。それらの煩惱は尽きることなく、絶えず私たちの心を苦しめています。全てが願ひ通りにならないのがこの世の

常なのでしよう。「精進の前には賢い、愚かし」という諺があります。「精進」とは「ひたすら仏道修行に励むこと」です。この世に生きていくと、どうしても成功・失敗など、物事を区別して見てもしまいがちですが、仏様の教えの前には賢人、愚人の差別はありません。悩みの多い現実世界（此岸）にいながら、悟りの世界（彼岸）と仏様の道で結ばれているのです。

過ぎない。俗世間で考えるところの愚かなことだから、他人から軽蔑されることは、罪障（悪い行い）が除かれる因縁となる。また愚か者は、おそろしく正直である。ただ心に思うままに話し、振る舞い、お世辞を言うこともなく、人に気に入られようと媚びる気持ちもない。そのせいで、人から軽んじられ見下される。「金剛般若経」には、「この世（現世）で人に軽んじられ、馬鹿にされれば、前世からの罪業（悪い結果を生む行い）が消えて、菩提の悟りを得る」と説

いている。古人が狂人のふりをして徳を隠したのには、この「金剛般若経」の意に基づいたものだろう。自分の欠点を隠して、徳を現すのは、誠に仏道に反するものである。（『沙石集』）

み続けることが大切なのでしよう。この世の歡きは、後の世の悦びなるべし（『沙石集』）
（現世の哀しみは、きつと来世の幸せだろう）
「馬鹿正直」を「愚直」と言います。ただ地方によつては、「愚直」は、仏様のものを指すとか、絶望の岸に立ちながらも、絶望の岸に立ちながらも、なお己の信じる道を愚直に突き進む人を、お盆にお戻りになったご先祖様は、どのような眼差しで見つめてくださるでしょう。（栃木北部教区普濟寺）

令和二年七月豪雨被災者の皆様に謹んでお見舞い申し上げます

熊本県を中心に九州地方や中部地方など、日本各地で発生した集中豪雨により甚大なる被害を受け、被災された多くの皆様に謹んでお見舞い申し上げます。災害により犠牲となり、お亡くなりになられた方々の御冥福を、心よりお祈り申し上げます。そして、一刻でも早い復興と、皆様に平安なる日々が訪れますようご祈念申し上げます。

大本山 高尾山 薬王院

二千百回の高尾登山



高尾山では登山者の励みになればとの思いから、「健康登山の証」に押印する健康登山を行っております。

健康登山の証一冊につき二十一回押印するペーシがあり、終了すると満行となります。特に百回満行(二千百回登山)することを「健康登山百冊成満」と言います。今月は七名の方が百冊成満され、通算二百人

日の達成者が現れました。

七月二十一日には参加が叶わなかった一名を除いて、御本尊様に無事達成御礼の御護摩修行に参加され、記念品を受け取られました。

百九十九人目の達成者は白井哲夫様で、退職後から健康登山を始め十七、十八年をかけて達成されました。これまで特に大きな病気もなく、健康維持に良かったとお



白井哲夫様

話されました。

二百人目の達成者となったのは森田哲生様で、平成二十二年に先輩の紹介で始められたそう、趣味の写真撮影の為にカメラを片手に、季節の花を撮影されながら登山をされております。

百回目の満行を意識するようにすると毎日のように登山するようになり、七夕の日の七月七日に無事達成されました。今後も無理せず登山を続けられるそうです。

二百一人目、二百三人目の達成者となったのは今野博雅・あい子御夫妻です。平成二十年から知人の紹介で始められ、最初の頃は月に数度の登山でしたが、慣れてくると面白くなり、徐々に登山の頻度が上がっていったとのこと。



今野御夫妻



森田哲生様

折り折りの記 (132)

波多野 重雄

田圃も痩せ蛙合戦なくさびし

燕を見ない。そう感じる程、昨今数が減ってきた。昔は交通事故に遭うのを心配する程、燕は縦横無尽に市内を飛んでいた。現在は、昔と比べ四割減だといふ。

新建材の家が増え巢の付着が困難、又家主もお宿を嫌う。燕雀は人家に巣を造るのは自己防衛。また、田圃の生物も変貌した。昔は平均十アール(十平米)にオタマジャクシ、アメンボ等昆虫類千七百種超生息していたと言ふ。

蛙合戦は遠い昔の夢物語。益鳥の燕、源五郎等も減少し、自然界の危機を叫ぶ。

(高尾山健康登山の会会長)

無念思

停職出征快腕

巨人投手散燦燦

護国英霊大歓迎

捨命救民值称賛

速球と

落差の大ききカーブにて

無安打無失点三試合

無念の思ひ

厚木市 荒井 一雄

休職し出陣させられ快腕を壊す...

読売巨人軍の某投手は燦々と散る...

護国英霊たちは彼を大歓迎す...

「捨命救民(命を捨てて国民を救ふ)」

は是れ賞賛に値すると...



町田洋一様

二百四人目は今家澄子様です。お気持ちをお伺いしますと、新型コロナウイルス流行による感染症のため、登山できず、もつと早く達成できる予定でしたが、今月に達成でき、ただただ嬉しいと言われておりました。

二百五人目は町田洋一様です。富士登山を目標として、登山経験を積む為に高尾山や陣馬山を登っていたようですが、知り合いの学校の先生からの紹介で健康登山を始めるようになりました。およそ九年で百回の満



今家澄子様

行を達成され、富士山にも四度登頂したとのこと、今後も高尾山のみならず富士山への登頂を目指すと語られました。

健康登山を通じて皆様の健康維持の一助となれたのであれば誠に喜ばしく存じます。最近では感染症の流行により不安を感じる時期ではありますが、健康登山者の皆様には無理はなさらずに、今

後もお楽しみ頂ければ幸いです。

高尾山年代記

歴代山主の事跡をたどる

8

明治大学博物館 外山 徹

六世慶尊 富士浅間権現の勧請

五世慶圓は大永五年(一五二五)に入寂。天正期(一五七三〜九二)の血脈によると後を承けたのが六世慶尊である。弘治二年(一五五六)までの在任時において未だ同時代の史料は遺ってこない。ところで、後世の伝として語り継がれる中で具体的な時期が付されるのは、行基開山・俊源中興の後、前回の永正元年の大火があつて、慶尊在任の天文年間(一五三二〜五五)における富士浅間権現の勧請となる。

北条氏綱の戦い

慶尊晋山の前年、北条氏綱は武蔵国へ進攻を開始、江戸城を攻略していた。先代北条早雲(伊勢宗瑞)は一時期、相模

北部から高尾山近辺への攻勢をかけたが、しばらく主攻方面は武蔵東部へ志向されることになる。蔵城(埼玉県蔵市)・岩付城(さいたま市)の争奪戦を繰り広げるが、扇谷上杉氏は山内上杉氏に來援を請う。両上杉氏は甲斐(山梨県)の武田氏、上総(千葉県)の真里谷武田氏、安房(同)の里見氏と盟約を結び北条包圍網を形成、氏綱は苦戦を強いられた。その一方、盟約から駿河(静岡県)・今川氏の甲斐出兵に援軍を差し向けねばならなかった。

氏綱の甲斐出兵の不在を衝いて扇谷上杉朝興は相模に侵入するが、すぐさま反撃に転じた氏綱は人間川合戦(埼玉県狭山市)に勝利。天文六年に朝興の跡を継いだ朝定が七月、武蔵府中へ要害を築くも、氏綱はこれを攻め略、余勢を駆って攻め上り、朝定を本拠河越城(川越市)から追い落とす。上杉勢の反撃を退けた。翌年二月には下総葛西城(東京都葛飾区)も攻略。扇谷上杉氏の來援に房総から出兵してきた小弓公方足利義明と里見義堯の連合軍も撃破した。足利義明は古河公方足利成氏の孫で、兄高基とその子晴氏と對抗関係にあつた。

天文五年に今川氏輝(氏綱従兄弟氏親の子)が急死すると、家督争いを経て当主となつた義元は、氏綱に断りなく甲斐の武田と同盟を結ぶ。これに介入しての戦いもあつた。争乱に明け暮れた氏綱は天文二〇年(一五四二)に死去。氏康が家督を継承した。

『小田原記』の謎

この天文年間に高尾山へ富士浅間権現が勧請されたという伝がある。「八王子名勝志」(嘉永二年・一八四九「巻四」成立)に猿渡氏所蔵という「異本小田原記」の記事として次のような文章が引用されている。謎解きの素材なので全文を引用するが、紙幅の都合もあり現代語訳のみを掲載する。

駿河国富士山は甲州・駿州・豆州三か国の境にあつて半ばは甲州、半ばは駿河、少し伊豆国に懸り、駿河大宮の浅間社を表とし、甲州吉田の浅間社を裏とする。諸国の参詣者はこの二口を第一としてゐる。しかるにこの五十年余り甲州・武州が乱国となり、国境に関を据え彼の山への参詣の宿路が塞がつたので、甲州吉田の御師は渡世の方法

がなく、色々工夫をめぐらした。武蔵国八王子に高尾山がある。行基菩薩開山で薬師如来を本尊とする。ここへ富士山の浅間大菩薩(浅間権現)を勧請し奉り、吉田の称宣(御師)はことごとく武州八王子へ移り、富士浅間が高尾山へ飛びたまふ由を披露した。奥州、常陸、出羽、上野、下野、上総、下総、安房等から多年関所に差し支えて参詣できなかつた道者どもがこれを聞いてことごとく参詣し、八王子高尾山はたちまち繁昌した。

『小田原記』には異本が数種あり、江戸中期の国学者瑞保己が編纂した「続群書類従」合戦部に「北条記」というタイトルで収録された中には「富士山之事」というこれとほぼ同一の記事による章段がある。文中北条一族についての言及はなく、なぜこの一文が収録

されたのかは不明で、内容も史実相当かは評価が困難である。

勧請の時期も実は明確ではない。年代を推定する手がかりは、「この五十余年甲州武州乱国となり」という一節のみである。「乱国」の用例として、戦国史研究の史料『勝山記』の延徳四年(一四九二)の条に「甲州乱国に成り」とある。武田信昌の後継をめぐって信繩・信恵の兄弟が対立し、国内の勢力を二分して抗争を始めた年である。武蔵側は両上杉氏の争う長享の乱の最中である。ここから五十余年となると、確かに天文年間となる。

東国からの参詣が絶えた原因となつた「国境に関をすえ」について、高尾山最寄りでは小仏峠上に富士関役所があつたが、天正三年(一五七五)付で参詣者を通行させるよう「富士役所」に宛てた北条氏照の朱印状が遺る。甲斐郡内(都留郡)の領主小山田氏が参詣者の世話を

する富士御師に宛てて檀那の関所通行を許可する書面を発給している事例もある。天文二三年(一五五四)に結ばれた甲相駿同盟以降には関所の通行にも融通が利いたようである。



戦国の頃も今とかわらぬ富士山の眺望があつたはずだ

関が全く塞がつたとすればその以前である。ただし、今川氏の没落を契機に永祿二年(一五六八)から元亀二年(一五七二)にかけ同盟の破れた時期も

あつた。さて、『勝山記』明応九年(一五〇〇)の条に「この年六月富士へ道者参る事限りなし、関東乱るにより須走へ皆々道者着くなり」とある。富士参詣が盛

の侵入、享祿三年(一五三〇)には八坪坂(山梨県上野原市)で合戦があつた。この様子からすると、武蔵側から津久井地方を通過できなくなるという事態はあり得たであろう。なお、富士御師は小山田氏の配下として従軍する立場にもあつた。

天文の頃、小仏以東を押さえていたのは大石氏だつた。大石氏はすでに北条氏に恭順していたと評価されるが、甲斐の武田氏との関係においては第三者的な立場も指摘される。津久井方面からの飛び火を警戒して峠を塞いでいた可能性はあるだろう。この場合、吉田の御師が敵方の津久井方面へ、なおかつ塞がれている関の向こうである八王子に移住することは現実的だろうか。

他方、天文四年(一五三三)の氏綱侵攻により武田氏配下として戦つた小山田氏は大敗を喫し、御師が集住する吉田は焼亡している。氏綱はこの時、

須走から山中湖を経由して攻め込んだ。南から押し上げられた御師らが東方へ逃亡を余儀なくされたという可能性はどうだろうか。北方へ津久井を迂回して武蔵に至るルートもある。何れにしても「吉田の称宣どもことごとく武州八王子へ移り」というような事態が本当にあつたのだろうか？

この「富士山之事」の一文の謎はまだまだ深い。しかし、当時の情勢と高尾山上から望見する山容を思えば、富士信仰の拠点として在ったこと、可能性は充分だろう。六世慶尊は弘治二年(一五五二)七月二十四日の寂とされる。北条氏の影響が多摩地域に及ぼされようとしていた。

《参考文献》富士吉田市史編さん室編『妙法寺記』(同市教委、一九九二)、平野榮次「富士信仰と富士講」(岩田書院、二〇〇四)、黒田基樹「戦国北条五代」(星海社新書、二〇一九)



疫病退散や罹患者平癒を祈る



願文を読み上げる

七月一日、高尾山上の富士浅間社において菅谷執事長御導師のもと、霊峰富士遙拝法楽が行われました。

本来であれば恒例の富士登拝修行が行われる時期ですが、残念ながら本年は新型コロナウイルス感染症の流行の影響により、富士山五合目から山頂まで通行出来ない状況を受け、富士登拝を断念致しました。

そのため本年は、通常富士山の山開き（吉田口）が行われる日に合わせて、高尾山において遙か遠くの富士山を拝み、また浅間大権現様に疫病退散、罹患者平癒をご祈念致し、願文の読み上げが行われました。

当日は雨模様ではありませんでしたが、高尾山から続く富士道に思いをはせ、一同は来年度の登拝修行を胸に誓い静かに祈りを捧げられました。

霊峰富士遙拝法楽厳修

七月一日(水)



盆送り火 先師墓地参り

七月十六日



高尾山お施餓鬼大法要

七月十二日 於・山麓不動院

高尾山に三密の道

仏の教え、コロナ下の生活に生かせる

五月二十五日に緊急事態宣言が全面解除されて以降、行楽地に入出が戻りつつある。都内屈指の観光名所、高尾山（八王子市）はどうなっているのか、密集を気にしながらケーブルカーで山頂に向かった。中腹の高尾山駅から歩くこと約十分ふと、「三密の道」と記された門が目に入った。登山客で密集？屋外なのに密閉空間？おそろおそろの門をくぐり抜けてみた。

「三密の道」入り口に立つ門は「苦」の文字を意匠し、「苦抜け門」との言葉も記してあった。その先には石段が続いている。脇道に入ろうとする観光客は少ないためか人の密集はなく、当然密閉空間でもない。深緑に囲まれながら、階段を上っていくうちに、心身

共に健康になっていく気さえしてくる。「三密の道」の石段は五十四段。その先には、釈迦の遺骨を納めているとされる仏舍利塔がそびえていた。「三密」は、真言宗の教えにある言葉です。高尾山薬王院の法務部長、堀江承豊さん（61）が解説してくれました。「三密の密」とは、真言宗（密教）では「身密」「口密」「意密」のことで、それぞれ正しい行い（身）、正しい言葉（口）、正しい心（意）を心掛けるための修行を指すのだという。

二〇〇七年にミシュランの三つ星に認定されるなど、国内外に観光地としての知名度が高まった高尾山。本来の修行の山としての姿も知ってもらいたいと、薬王院が二〇一四年に整備したのが

「三密の道」の真相だった。

ネット上では「集近閉（じゅう・きん・ぺい）」という言葉も広まりつつあるが、新型コロナウイルス感染症対策の主流のキーワードは仏教とは関係のない「三密」。「換気の悪い密閉空間」「多数が集まる密閉場所」「間近で会話や発声をする密接場面」を意味する。集団感染が起った場所を調べた際に、この三つの「密」が共通となっていたことから、安倍晋三首相や都道府県知事らが強調するようになった。今では、新聞やテレビなどで目にしない日はない。

堀江さんは「宗教的な意味と異なる『三密』が広まってしまった」と苦笑しながら、「本来の教えを今の生活に生かすこともできる」とも語る。「感染する恐れがある行為は行わない（身密）」「感染者や医療従事者らへの誹謗中傷を行わない（口密）」「周囲の人にいたわ



三密の道の入り口に建つ苦抜け門

りの心を持つ（意密）」気持ちが悪さみがちな今だからこそ、「三密を意識することが大切なのではないでしょうか」と訴える。

自粛生活でたまったストレスを解消しようと、高尾山を訪れる観光客も少しずつ戻り始めている。ひたすら山頂を目指すのもいいが、普段の行いを振り返り、コロナ禍

を乗り越えるための行動を考えるには、豊かな緑に囲まれた「密」とは無縁の「三密の道」は最適な場かもしれない。「密閉」「密集」「密接」を避けながら、新しい生活様式を思い描いてみるのはいかがだろうか。

（東京新聞二〇二〇年六月十六日付朝刊二十八面「高尾山に三密の道」より転載）

観音菩薩の宗教

32

国際教養大学特任教授 金岡秀郎

二十一ターラー菩薩を讃える経典 (その7)

承前。

第十四詩節の前半はターラー菩薩の手足の力を述べ、後半はその音声の力を示す。それらによりあらゆる悪を粉碎するとするのが、この詩節の説くところである。

安藏による漢訳は、「敬禮手按大地母／以足踐蹋作鎮壓／現瞿眉面作吽聲／能破七險鎮降伏」とある。

Sの注釈では、「眉を擧めるターラー (Tara Bhrikuti / sgRol ma Khro gnyer can ma) または「呪の力などにより」屈服させるターラー (Tara Vaskari / sgRol ma 'Gugs ma)」と名付けられ、Nでも「眉を擧めるターラー」

と呼ばれている。またあるSによれば、その圖像についてこのターラーは三面で、正面が黒、右面が白、左面が赤としている。頭蓋骨の璽路を身に付け、頭蓋骨の宝冠をかぶり、虎の皮の腰巻きを着るとするS系の注釈もある(ワイルソン前掲書一四八頁)。

(15.1) (ターラーを) 讚歎する。
(汝ターラーは) 幸福で美しく
寂靜で

(15.2) (ターラーの住する) 野は寂靜の
涅槃なり

(15.3) (汝ターラーは聖なる音の) スヴァーハーとオームと

(15.4) 共にあり
(その音は) 偉大なる(悪の) 降伏者にして破壊者なり

(解説) (15.1) 「幸福 (Siva)」美しい (Subha) 「寂靜 (Santā)」のサンスクリット原語はみな「シュ (S)」音で始まっている。そのチベット語訳は、「至福の母、有徳の母、寂靜の母」を意味する「デマ・ゲマ・シマ (Dge ma dge ma zhi ma)」とされる。

最初の語の「幸福」は、「苦」から自由であることを示す。二語目の「美しい」はチベット語訳に見られるように「有徳」「美徳」に通じ、その実例として Khanchen Palden Sherab / Khenpo Tsewang Dongyal (前掲書一四〇頁) はヴァスバンドウの弟子のステイラマティ (Sthiramati) のターラーへの供養とその功德

を挙げている。それによれば、ステイラマティは少年時代、昼食の前にターラー像の手に豆を捧げたが、何をやってもその手から落ちてしまった。彼はターラーの手に豆が乗るまで食事をしないと決心したが、最後まで乗らなかつた。ステイラマティがターラーを咎めるとターラーは姿を現し、彼に智慧を授けたという。それ以来、ステイラマティはターラーを尊崇し続けたとされる。こうしたターラーの行いを「美しい」と捉えるものである。

三語目の「寂靜」は悟り・涅槃の境地を示す。(15.2) ここでは再び「涅槃の寂靜 (santa-ñāna)」として、その境地を強調している。大乘の諸仏諸菩薩はしばしばその住処を有するが、ターラーの住む野 (gocara) は寂靜・涅槃の場所とされる。(15.3) (15.4) 前の詩節と同様、後半部もターラーの音声による救いを示す。

聖なる音たる「スヴァーハー」と「オーム」により悪を挫くことを説く。安藏の漢訳では、「敬禮安隱柔善母／涅槃寂滅最樂境／莎訶命種以相應／善能消滅大災禍」とある。

Sの注釈では「大なる寂靜のターラー (Tara Mata-santi / sgRol ma Zhi ba chen mo)」と呼び、白蓮華と白い月の上の金剛座 (vajra-paryanka) に住すとされる。身体の色は月やジャスミンの色である白色で、一面六臂である。

Nの注釈では、「完全なる寂靜のターラー (Tara Prasāntī / sgRol ma rab tu zhi ma)」と命名されてゐる。

(16.1) (ターラーを) 讚歎する。(汝ターラーは) 喜びに包まれて

(16.2) 敵の身体を打ち砕く
(16.3) 十音節の言葉

並べて
(16.4) フームの呪によ
りて輝ける

(解説) (16.1) 「喜び」の原語は、サンスクリット語でプラムディター (pranudita)。仏教の説く一切衆生に対するあわれみの心である四無量心(慈悲喜捨)の「喜 (mudita)」に「完全なる」を表す接頭辞 pa が付いたもの。衆生を救う喜びを示す。(16.2) 「敵の身体」はリブ・ガートラ (ripu-gātra)。ガートラは四肢または身体を意味する。これを「完膚なきまでにばらばらにする」ことを述べる (prahedini)。(16.3) 「十音節の言葉 (dasākṣara-pada / yige bcu pai ngag)」はS系の注釈によれば「オーム・ターラー・トゥッターレー・トゥッターレー・トゥッターレー・トゥッターレー・ハール (Om tāte tūttāte ture svāhā)」を指す。うじに

含まれる母音を短母音・

長母音にかかわらず一音節 (アクシャラ) とすると十音節となる。これは、すでに記したように (拙稿「観音菩薩の宗教」) ターラーに対する真言として最も流布してきた。密教学者の田久保周吾はその意を「唵唯多羅尊よ唯多羅尊よ。唵、娑嚩訶」としている (『真言陀羅尼藏の解説』鹿野苑一九六〇年)。唵、娑嚩訶は漢訳に倣ったもので、それぞれオーム、スヴァーハーの音写である。

安藏の漢訳では、「敬禮普遍極喜母／諸怨支體令脫離／十字咒句妙嚴布／明咒吽聲常朗輝」とある。Sの注釈では、このターラーは「貪欲を破壊する (Rāga niśudant Tara / sgRol ma chags joms ma)」と名付けられていて、貪欲 (ラーガ) は本来「染めること」を意味し、瞋・愚痴とともに三毒を形成する。その圖像は、赤い珊瑚色の身体

三眼を有する二面に二臂とされる。Nの注釈では、「光線を発するターラー (Tara Kiranajvala / sgRol ma bar bai 'od can)」と呼ばれてゐる (https://www.wrigpawiki.org/index.php?title=Two-lyone [Tara]). サンスクリット原語は、キラナ(光線)とウツジヴァラー(燃え上がる)の合成語である。同じく、N系の命名に「明呪を破壊するター

ラー (SgRol ma Rig ngag stobs gzhom)」がある。ここにいう「明呪 (rig ngag)」は仏菩薩へのマントラではなく、その誤用による呪詛を指す (Khenchen Palden Sherab / Khenpo Tsewang Dongyal 前掲書一四五―一四六頁)。すなわち、他者を呪いにより殲滅せんとする黒魔術である。ターラーはこうした呪詛を打ち砕くとされる。観音菩薩も呪詛か

らの救いを説くが、ここでは「呪詛諸毒業、所欲害身者、念彼観音力、還著於本人(他者の呪詛や諸の毒業により身を害されそうになっても、彼の観音力を念じれば、その呪詛や毒はそれをなそうとした人に戻っていく)」とあり、観音菩薩による直接的な「破壊」はない。ターラー菩薩の降伏は、より激しい性格を示しているといえよう。



第十五詩節に讃えられた「大なる静寂のターラー」像。サナバザル作。十七世紀。フロンズ製。金箔ウランバートルボグド・ハーン宮殿博物館蔵。(Masterpieces of Bogd Khan Palace Museum, Ulaanbaatar, 2011)。

人と繋がる喜び

シヤンソン歌手 友納あけみ

「雨に濡れた紫陽花がキラキラと、久しぶりの陽射しに揺れています。」

新型コロナウイルスがまだまだ終息に向かわず、落ち着かない日々が続いております。皆様、如何お過ごしでしょうか？

罹患された方々へは謹んでお見舞いをし、そして医療機関等々で、尽力下さっている皆様へは、惜しみ無い敬意と感謝を捧げております。

コロナウイルスは私達から「触れ合うこと」を奪っていきました。誰とも触れ合うことなしに、どんなことをしていても、みんなにも詰まらなく、淋しいことだったのか？この二、三ヶ月の日々で思い知らされました。共に時を過ごして「楽しいね」「綺麗だね」「素敵だね」「美味しいね」そんな

な想いや言葉、仕草を交わし合うことで、幸せを感じていたのだと。

コロナウイルスは、私からステイジも奪っていきました。五月に予定していた二十七日目のコンサートも、イベントも、ライブも、NHKホールでのパリ祭もみんな無くなつてしまいました。気が付くと何とも言えない不安な日々の中で「私は何者か？何故、歌っているのか？」と自問自答をして

いました。やっぱり誰かに想いを届けたい！少しでも幸せを感じて頂きたい！音楽を通して柔らかな快いエネルギーを伝えることができれば…私の心の答えでした。アナログ人間で未だにスマホに遊ばれている（笑）私でしたが、笑ってしまうような悪戦苦闘

（笑）を繰り返し、自撮りで歌う姿を撮影して、何人かの皆様に送らせて頂きました。

我が家の窓辺から、マイクは使わず、生の声を、お一人お一人のお部屋で歌っている様に感じて頂ければと！「癒されたよ」との返信を頂いた時は、久しぶりで誰かと繋がり、嬉しくて私の心も一杯になり、深い喜びと共に癒された気分でした。人と人が繋がることは、こんなに素敵なことなのだ！



高尾山の昆虫

クロオビヒゲナガゾウムシ

130

ゾウムシに近縁の甲虫にヒゲナガゾウムシ（鬚長象鼻虫）の仲間がいます。ゾウムシのように口吻が細長く前方に伸びず、幅広く、触角も膝状に折り曲がらない等の特徴があり、見た目の印象はかなり異なります。



さらに同じヒゲナガゾウムシでも種により大きさや形状にかなり変異があつて、ややマニアックなグループと言えるでしょう。ヒゲナガゾウムシの名とは裏腹に触角が短い種も少なくないですが、今回取り上げるクロオビヒゲナガゾウムシは雄で体長の四・五倍、雌でも体長の二・五倍の長大な触角を備え、ヒゲナガカミキリ顔負けの髭長ふりです。

体長は十ミリにも達しませんが、灰色がかつた上翅には二条の太い黒帯が入り、初めて出会った人はその異常な触角の長さに見わす見とれてしまうと思います。

広葉樹の伐採木や枯れ枝に集まり、長い触角をなびかせて止まっている姿は実に優雅です。

時に灯火にも集まり、私も最初に出会った時は一瞬カミキリかと思いましたが、幅広い口吻がヒゲナガゾウムシだと自己主張しているようでした。

（文 松島 孝 撮影 加藤 茂）

一期一会

八王子市 澤田 守止

直接「二期一会」と云う言葉ではないが、千利休の高弟である宗二が、自筆の秘伝書「山上宗二記」天正十六年（一五八八）の中に、

常ノ茶ノ湯ナリトモ、路地へ入ルヨリ出ツルマデ、一期二一度ノ参会ノヤウニ、亭主ヲ敬ヒ畏ヘシ。公事ノ儀、世間ノ雑談、悉ク無用ナリ

との記載がある。

後年、江戸末期の彦根藩主であった井伊直弼（茶号「宗観」）の茶書「茶湯一会集」に

抑茶湯ノ交會ハ、一期一会トイヒテ（中略）実二我一世一度ノ会ナリ…

との記載があり、初めてこの「一期一会」という言葉が、出てきたのであるという。

一期とは仏教用語で、

生まれてから死ぬまでのこと。

一会とは主に法要や茶会などで、一つの集まりや会合のことを言うが、一度の出会い。

本来は仏教からの言葉である。

以上は言葉の解説であるが、人との出会いも、物との出会いも真にその

通りである。

人生とは、人との巡り会いの瞬間の連続である。想えば色々な人と巡り会い、別れて来た。

出会った者は、必ず離れる運命にあるという会者定離、日常生活の中の喜怒哀楽、これらの遭遇によつて人の人生は変化して、新しい人生の芝居

の幕が上がリ、又は幕が下りる。これが本当の人生劇場なのである。

人生の劇場で会った色々な人に、もう一度会いたいと思う時がある。今日会えた人が、明日には会えなくなるかもしれないのが、この世の常であるから、思い出づくりの為に、今会いた

いと思っている人には、

できる限り会う努力をした方が良いでしょう。

一期一会というものには、

人のみの世界ではないという事を書いた小説があつたので、引用しておく。

品との出会いは一期一会。この信念は蒐集家としても知られた父から、叩き込まれている。値で二の足を踏めば必ず品物は逃げる。一度逃げた品は倍の値を積もうが、三倍払う積りになるが、二度と戻つて来ない。一期一会と思ひ定めて買った品を、一期一会の意味を良く心得て

ばならないと感じるのである。

万緑や けふ一日を 一期とす 瀬戸内 寂聴 「いよよ華やぐ」より 合 掌



大山御貴首揮毫の短冊

おはなし散歩道 腹八分目

八王子市 池田 美絵

今年十五になる一太は、天涯孤独の境遇ながら立派に畑を耕し、暮らしていた。ある日のこと、一太は同い年のみつに打ち明けた。

「裏山に行って山ぶどうをたんまり食べたらさ、おなか痛くなったよ。さ。きつとオレの体に合わないんだな」

また別の日も「ウリがたたくさんだったから味見したらさ、おいしくて止まらなくなっておなか壊しちゃった。ウリもおいらには合わない」と。一太の話聞いていたみつは、あきれ顔で応えた。

「ぶどうやウリが悪いわけじゃない。欲をかくからおなか壊すの。一太のせいよ。腹八分目を守りなさい」
「ハラハチブンメ？ な

にそれ？」
「満腹になるまで食べないようにすれば、病気になることはないってことよ」。

一太はみつに諭され、返す言葉もなくとほとほと家に戻った。台所には今晩焼いて食べようと思っていた団子がたんまりとあった。

「みつの言うとおりに、今日は満腹になる前にやめてみるか」
少し口さみしかったが、腹八分目で食べるのをやめてみるとおなか痛くなることはなかった。

「でもさ、食べ物を残して腐らせたらいけないでしょ。だから全部食べちゃうんだよ。一太はまだ言い訳を考えていた。朝になり、一太はいつものように畑仕事に出かけた。夏場は雑草の成

長が早い。腰をかめ草取りに精を出していると、額から汗が流れた。すると、目の前をアリたちが列をなして通るのが見えた。虫の羽のようなもの、食べ物のかけらのようなものを、めいめいが担ぎ、けなげにも進んでいる。一太はしばらくその様子に見とれていた。

「アリは自分が食べるだけではなく、仲間のために食べ物を運んでいる。独り占めはよくないってことだな。一太はしみじみと感じた。

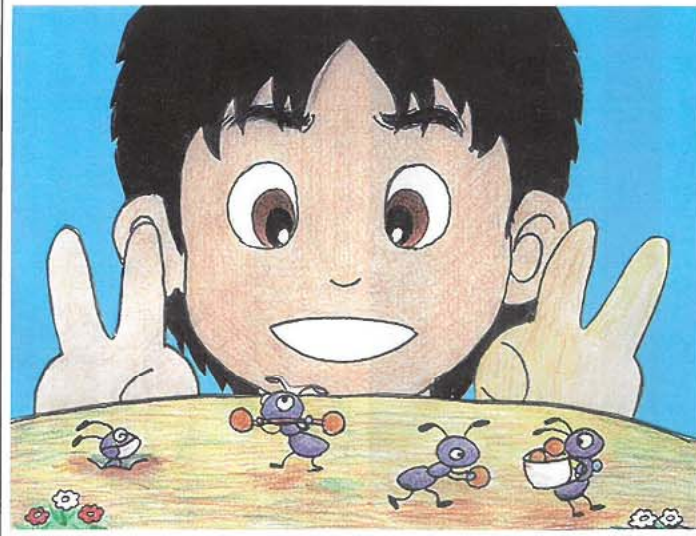
日が西に傾き、かごはウリでいっぱいになった。お天道さまに感謝の合掌をして、さて帰ろうかとかごを背負うと、ずつしりとした重さで肩ひもが食い込んだ。

ふと、みつの顔が浮かんだ。一太は踵を返し、みつの家に向かった。みつは畑に出ている両親に代わり、おばあさんの世話をしていた。
「おみっちゃん、ウリがとれたから食べて」

一太は両手いっぱい抱えたウリをみつに差し出した。
「まあ、こんなにたくさん。うちのおばあちゃんにはウリを柔らかく煮たのが大好きなの」。

一太の胸に暖かいものが広がった。みつに喜んでもらったことがうれしかった。
それからというものの、一太は農作物がたくさんとれると近所の人に分けて歩いた。腹を壊すことはなくなり、いつのまにか腹八分目で満足できる一太になったぞうだ。

(挿し絵・小出 茂)



高尾山小物語 28

明治期の高尾山再興

絵・橋本豊治



三堂の移築
現在、大本堂が建てられている場所に並んでいた三堂は大本堂再建に際しそれぞれ移築され、薬師堂は山麓の大光寺本堂に、護摩堂は現在の奥之院不動堂に、大日堂は現在の大師堂へと名前を変えました。

明治十九年（一八八六）九月、土砂崩れにより倒壊した本堂再建等の堂宇修繕費用勸進のため、翌年には、五十日間及ぶ出開帳が深川不動堂で盛大に行われ、維新後には疎遠となっていた、御信徒との間の御縁を深めるきっかけとなりました。

さらにその翌年に高尾山内で居開帳が催されると、八王子まで開通した鉄道敷設などの交通網整備の影響もあり、関東各地から講中による団参加が活性化するようになり、高尾山は衰亡の危機から脱したのです。

本堂倒壊の十五年後、明治三十四年には現在に至る大本堂が落成し、その後明治時代の終わりにかけて山内整備が進むこととなり、近代以降発展した高尾山信仰の礎が築かれました。

考えかえて
生き方かえて
納得人生
それもよい

院内散歩

薬王院の展示物

42



木版画

『東福寺睡蓮』

作・井堂雅夫

絵・橋本

一步一步煩惱減除

百八の階段を昇り、悩みや煩い事を取り除きましょう

九十一段 心が軽くなれば動きも軽くなる

心が疲れている時はとにかく自信をなくがちです。そうすると、考えていることをいざ行動にうつすにも時間がかかるとあるでしょう。そんな時には思い切り走る運動をしたり、ぼんやりと何も考えないなどの気分転換してみましょう。

『高尾山健康登山の証』のお勧め
年間約二百八十万人の人々が訪れ、「世界一登山者の多い山」として知られている高尾山。登山者の皆様の励みになれば、との思いから平成十一年から健康登山を始め、今では約五万人の方々が会員となられております。期限はございませんので、御自分のペースでお楽しみ下さい。

また、一冊に付き三十一回スタンプを押すページがあり、終了したことを満行と言います。満行されますとお祝い膳として精進料理の御接待や、健康登山者限定の記念品などと交換もできます。



帳面……………七百円
スタンプ……………百円

高尾山 季節散歩

暦の言葉

「七十二候」

蒙霧升降

「ふかききりまとう」

八月十七日〜八月二十二日頃

「蒙霧」とは、もうもうと立ちこめる濃い霧のことです。

暑い夏が終わりに近づき、日中と朝夕との気温差が大きくなると、霧が発生しやすくなります。高尾山でもこの時期にはよく霧に包まれるようになります。

今月の風物詩

盆踊り

お盆の時期になると、やぐらを開んで輪になり、死者を供養するために盆踊りが行われます。盆踊りは平安時代に始まった念仏踊りが、先祖供養の盂蘭盆会(お盆)と結びつき、精霊を送り出すための行事になったと考えられています。

いけばなの心⑥

華道教授 佐藤 宗明

八月。暦では立秋となつてきますが、暑さはこれから本番ですね。今回の作品は、萱草を使用した生花正風体です。萱草はニッコウキスゲなどと同じ仲間なので、高地の少し爽やかな感じを思い起こして頂ければと思います。

適度に省略、長短をつけて軽やかに配置することで高原の爽やかな風をよみ感じてもらえる様に心がけました。

「萱草色」という色があるくらいで、萱草は色鮮やかなオレンジがかつた黄色い花が美しい花材です。中心に配置する役

配して作品全体を鮮やかな色合いとしています。ただ、この花は朝咲いた、夕方にはほとんどしぼんでしまう、とてもはかない花でもあります。普通の花屋ではまず取り扱われておらず、掲載した作品も華道家元御用達の生花店で仕入れて生けさせて頂きました。ご自身で育てていても、花が綺麗に咲くタイミングで摘んで生ける事はなかなか難しく、出来たとするとそれはとても贅沢な時間ですね。



花材…萱草(カンゾウ)

健康登山者投稿作品

季節の絵手紙

八王子市 栃谷 玲子

「ウバユリ」



「日々に感謝」



高尾山秀峰会各行事

中止のお知らせ

今秋に実施を予定しておりました高尾山秀峰会の行事につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、ご信徒皆さまの健康と安全を考慮して左記の行事を中止とすることを決定致しました。

第百十七回 高尾山信徒峰中修行会

十月十日(土)〜十一日(日)

高尾山内八十八大師巡拝

十月十三日(火)

皆様には何卒ご理解の程お願い申し上げます。

新型コロナウイルスに対する安全対策

高尾山薬王院では、新型コロナウイルスの感染予防を図る為、受付や御札授与所における飛沫感染防止ビニールガードの設置、境内各所への消毒液設置、また職員のマスク着用などの対策を実施しております。

御来山の皆様におかれましても、手洗いやマスク着用等の予防対策に十分留意されますようお願いしております。

皆様にはご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解とご協力の程よろしくお願い申し上げます。

お護摩修行のすすめ

皆様の諸願成就を祈願する

高尾山では大本堂に於いて、毎日御護摩修行を行っております。

お護摩修行とは、護摩木という特別な薪を大導師が御護摩の炎の中に投入し、あらゆる煩惱を焼き浄めるために行われます。そして、御信徒の皆様が祈りが御本尊に届けられ、皆様の諸願が成就するという修行であります。

御護摩修行を行った方には、御護摩札が授与されます。

大切にお持ち帰り頂き、お供物と共に自宅等に奉安礼拝して、一心に御宝号「南無飯繩大権現」とお唱え下さい。



郵送御護摩 申し込み受付について

高尾山では大本堂に於いて、毎日御護摩修行を行っております。遠方にお住まいの方や、感染症流行によりお参りできない御信徒皆さまのために、御護摩札の郵送もお受けしております。

手紙、FAX等での申し込みをお願いしておりますが、高尾山薬王院の公式ホームページ内にあります「御護摩祈禱の御案内」からも、直接お申し込みすることが出来ますので、こちらも併せて御案内申し上げます。

ご不明な点等ございましたらお問い合わせ願います。

お問い合わせ先

TEL 042-661-1115
FAX 042-664-1199
「郵送御護摩係」まで

高尾山仏舍利塔

結縁牌懸仏のおすすめ

高尾山にはタイ王国・王室より授けられた、大聖釈尊の真身骨を奉安してある仏舍利塔があります。そしてその周りを囲むように建立された百観音お砂踏霊場がございます。

御信徒各位には、釈尊との御勝縁を結ばれますよう、仏舍利塔内に結縁牌懸仏（かけぼとけ）をご納仏されることをお勧め申し上げます。

この結縁牌懸仏は、夫々のご家族の先祖代々供養の為に、あるいは講中、参拝団の物故者慰霊の為に、お釈迦様と御信徒の皆様との尊いご結縁のしるしとして、霊名あるいは施主のご芳名を刻み、仏舍利塔内壁面に奉安し、大聖釈尊の聖骨と共に幾久しく供養されるものであります。



御納仏冥加料 一体 拾万円也

尚、お申し込みの方には「御納仏回向之証」をお授け致します。



高尾山のお護摩札とお供物



交通安全 (ステッカー) (車内用札)	お護摩 3,000円以上	お護摩 5,000円以上	お護摩 10,000円以上	特別大護摩 30,000円以上	開帳大護摩 50,000円以上	特別開帳大護摩 100,000円以上
10,000円 (大) 5,000円 (中) 3,000円 (小)						

- 家内安全(家)
- 商業繁昌(商)
- 事業繁栄(事)
- 交通安全
- 車内用札 不交
- 交通安全(身)
- 身の上安全(身)
- 災難消除(災)
- 厄除(厄)
- 身体健全(体)
- 当病平癒(病)
- 開運(開)
- 良縁成就(縁)
- 安産成就(安)
- 入学成就(入)
- 心願成就(心)
- 御礼(札)
- 奉納杉苗(杉)

高尾山報助成金志納者	御芳名(順不同・敬称略)	新座市 彰山 精麗	八王子市 平野 千恵子	旭市 上野 照寿	練馬区 倉嶋 雅一	小金井市 鈴木 靖江	古河市 竹村 ひさ子	練馬区 小林 才江	仙台市 小山田 良昭	八王子市 宇佐美 紀子	石岡市 植田 駿	高崎市 大澤 登	世田谷区 高橋 秀樹	八王子市 番場 治男	府中市 石川 光雄	戸田市 永田 新一	古河市 中村 信成	小諸市 金子 久子	我孫子市 大島 まさ子	前橋市 吉野 正治	北本市 横田 信治	八王子市 江本 直喜	草加市 増山 直	新座市 井上 潔	日野市 高橋 久子	八王子市 守屋 利男	福生市 関道雄
------------	--------------	-----------	-------------	----------	-----------	------------	------------	-----------	------------	-------------	----------	----------	------------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-------------	-----------	-----------	------------	----------	----------	-----------	------------	---------

高尾山報助成金 御志納のお願い

当山では、大護摩修行や星祭り等により御縁を結ばれた御信徒様に、高尾山報を送っております。引き続きご愛読されますよう、皆様方の助成金御志納をお願い申し上げます。

八王子市 吉田 利江	前橋市 櫻井 典子	八王子市 (株)野口組	徳田 宏晴	茅ヶ崎市 椎野 佳子	足立区 中山 恵司	世田谷区 森 謙三	日野市 馬場 取	八王子市 野村 博敏	八王子市 黒川 昭一	前橋市 野口 政二	八王子市 八木原 茂	高尾山健康登山者一同	石坂 詠子
------------	-----------	-------------	-------	------------	-----------	-----------	----------	------------	------------	-----------	------------	------------	-------

毎日の
お護摩奉修時間

(4月15日～10月31日まで)

午前5時30分

〃 9時30分

〃 11時00分

午後0時30分

〃 2時00分

〃 3時30分

ご講中・団体等御相談
下さい。

令和二年盛夏



暑中お見舞い
申し上げます。



大般若経を守護する十六善神の図

神徳報謝百味飲食供
御志納のおすすめ

当山では、御本尊飯繩大権現様の日々の御加護に感謝するために、御縁日である二十一日に、沢山のお供物を捧げて、大般若経六百巻を転読し、供養申し上げる法要を執り行っております。

皆様の御志納を受け付けておりますので、ご希望の方は問い合わせ下さい。

尚、法要終了後に大本堂にて百味の御札を授与致します。

また、当日参加できない方にはお札の郵送も受け付けております。

毎月二十一日 午前九時(於大本堂)
御志納金 一口 三千元以上

九月行事日程

一日～七日

聖天秘供(聖天堂)

十一日、二十三日

弁天様御縁日

八日

仏舎利詣り(仏舎利塔)

十二日、十三日

聖天堂開扉法要

十五日

御詠歌勉強会

二十一日

(十時山麓不動院)

飯繩様御縁日

神徳報謝百味飲食供

(九時大本堂)

二十六日

月例写経会

二十七日

(十三時山麓不動院)

高尾山とんとんむかし

「語り部の会」

二十八日

(十二時半山麓不動院)

奥之院開扉法要(十時奥之院)

高尾山薬王院ホームページ
<http://www.takaosan.or.jp>

発行所
東京都八王子市高尾町2177
大本山
高尾山薬王院
郵便番号 193-8686
電話(042)-661-1115(代)
FAX(042)-664-1199
発行人 菅谷秀文
編集人 渋谷秀芳
印刷 ヒラツカ印刷社
毎月1回1日発行
1部50円